

見聞随筆

裁

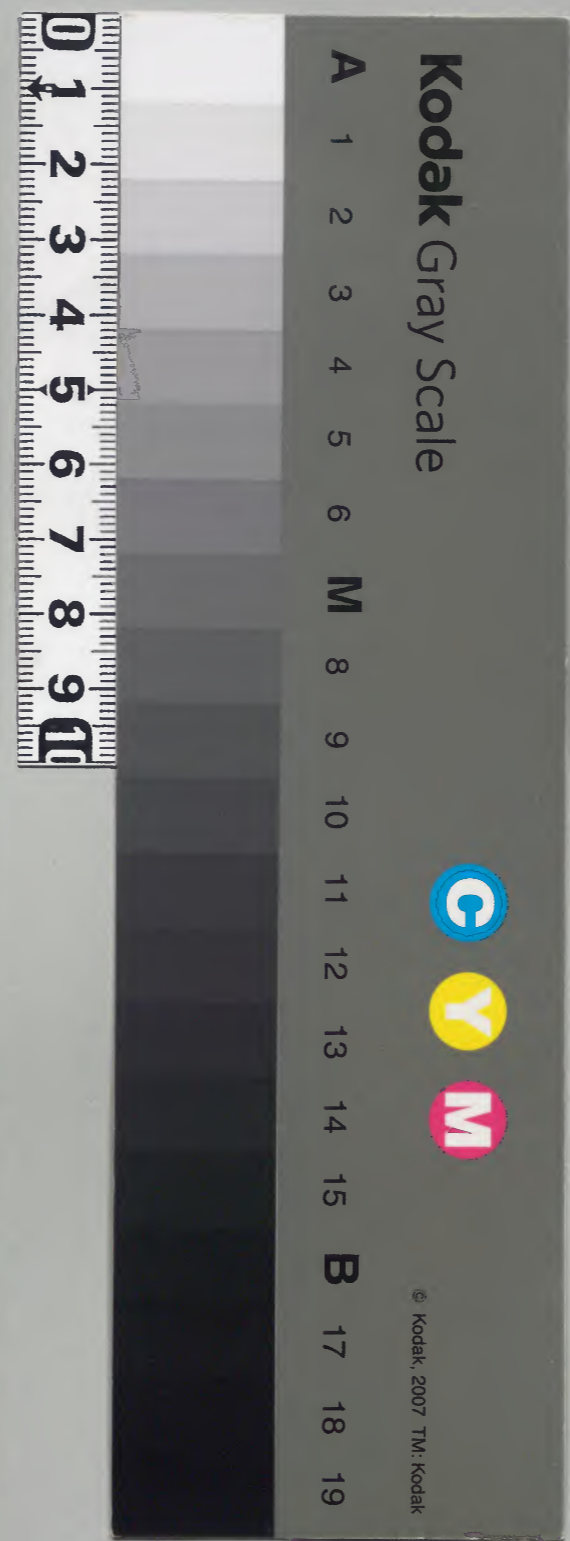
裁

家傳

和書門				
三	四	六	七	類
冊	架	函	號	類
五				

内閣文庫		
五	三	和
函	四	書
一	〇	類
架	冊	號
〇	五	七

内閣文庫		
番號	和	34467
冊數	5	( 2 )
函號	151	101

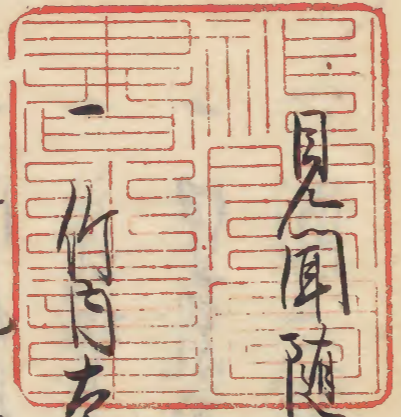


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



岡  
222

貝圖隨筆二卷目錄



竹岡古席奪り出さる

竹尾友右衛門先祖事

竹尾集人太蛇と噂殺事

酒角十右衛門先祖事

加賀一周舟争事

横濱徳右衛門事

川合三弥直江山城事

岩付助左衛門事





一 江坂次郎重忠文書之事

一 丹尾金重女書之事

一 墨沢源右衛門相腹古方未嘗者事

一 久保田金七承之事

一 伊友忠重古坂内陣討北之事

一 伊友重之丞友田能重忠書對父之事

一 因人松智之事

一 之氣加久古師古史古祖之事

一 伊友重勝古史古祖之事

一 瀧下人古師古重行之事

一 沼上八重古坂内陣古史古事

一 本月松重古史古祖之事

一 上泉之水書之事

一 伊友重之丞友田能重忠書對父之事

一 長谷川重之書古史古祖之事

一 鶴林遍照寺書之事

一 安松孫古坂内陣古史古事

一 神谷助重古坂内陣古史古事

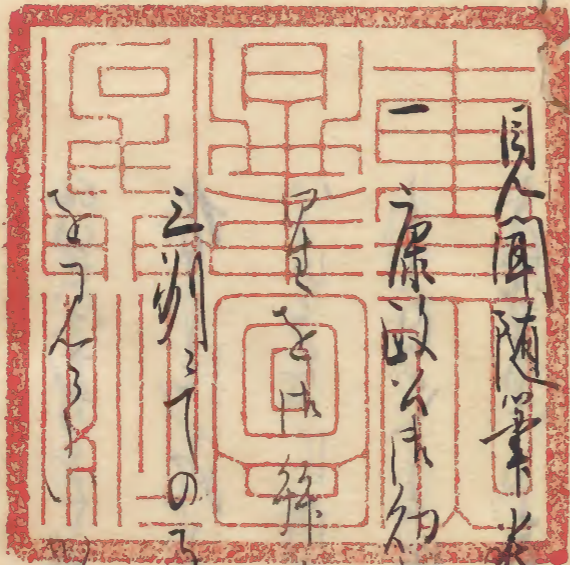
一 野間重仙重古史古事

一 久保重之書古史古事



一 松平佐左衛門

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the name '松平佐左衛門'.



一 松平佐左衛門

一 原政公は知少の時より母を極極無状文を極極無状  
之洲ののりし隣に於ては帝を奉りて居りける  
或る時此の事一に我々佐左衛門

るに父の教はなす子供の行末を文にて世に  
廣く知らせし事あり極よき事とせしむるは其の  
當りたる事とせしむるは必其の有りたる事なり  
侍りたる事とせしむるは其の有りたる事なり  
こそ其の事とせしむるは其の有りたる事なり



は成はる方しは持ち来ぬしは下はとてた馬の  
母の泣く泣くをすはくう後のち馬を一人に抱  
泣かす

一 七師志忠つ長ぬは徳川世承り人家人にて国井  
於監及母子に於附は勅し成りて於監及は湯友  
の志有るくふく 神志の内敵に成りたるは  
有りに於わは成りて満の侍中一障らあり面  
はしつらに於るは仕し成りて長ぬはしは旗本なるは  
一内じと野に於は泣く内康ぬは正徳生  
らに於りて長生神は泣くは多治小舟尾

有るはつらぬ長信に抱きありては長ぬは長ぬは  
仕し成りてはつらぬは長ぬは長ぬは長ぬは  
しと云りたは小文に於は泣くは長ぬは長ぬは  
有るは長ぬは成長のとては内例と罷りて  
を自ら直勅しは成世のと侍て人の娘と成  
たはしは湯友に於るは長ぬは長ぬは長ぬは  
有るは長ぬは長ぬは

一 弁尾集の知林に於るは中へ教しは長ぬは  
たせしは長ぬは長ぬは長ぬは長ぬは長ぬは  
はるは長ぬは長ぬは長ぬは長ぬは長ぬは



隼人活物と持て一人は眼子持を小本小井  
 のしあつたる中へくろり入搜りしる、何のふり  
 集人の胸中と二重と斗に引きはく志見付て  
 本の上へ引上たりぬハ大陀にせられたるよと  
 つと母おハるしーいんまもまも母も多かり  
 修とてまよふ修上の方とてんたつたれ本の候  
 よりたき成陀はとてひとりの候とては  
 ひじい、格もをくたうハは方とあつたおと  
 内に子の居く後にぬりたをぬぬ先には  
 其れ根に身をとり本の候は押せり左乃



手とて本押付押付はる後に大陀あるハカ  
 つよくゑん殺するもなきは活ある候に押付  
 くはる夜お陀の咽乃鎌二お斗も押えり  
 其時延上り鎌の首たつとと喰付たり運ハ  
 強一カと今々嚙切吐出して、又嚙れに  
 眞の骨迄嚙付たり陀ハ名一りて  
 人とせし、金割カとありある押付嚙たり  
 程に陀も好方によりり力そたつた  
 たりし志まうしし中におきたり押せり  
 本の下乃、殺此内ハ首たつし、徳入たつた









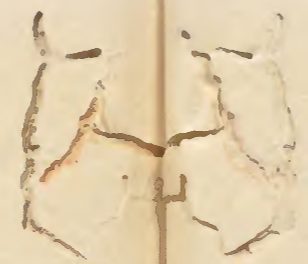






云々一人の志は...

一 川今之強はち板を鴨野川を渡りて佐行に  
力を付たりの別のちまは者の心の向村に  
はむらうの利根の年昏て之は舟にまき居  
ちの而の上板の直に山城を直續佐野の大勢  
引引て舟にまき居るはと云  
ふをまき居て山城を勝えらるるは  
くんこはいの成人まき居るは先ふまき居る  
引引て舟にまき居るは我の村系  
或はた水牛河今之強を...

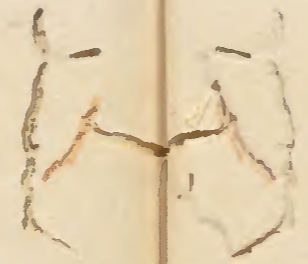


男役と勤る者やは板を不承してハミキ  
つらおきりてハ山城を直續佐野の大勢  
引引て舟にまき居るはと云  
ふをまき居て山城を勝えらるるは  
くんこはいの成人まき居るは先ふまき居る  
引引て舟にまき居るは我の村系  
或はた水牛河今之強を...



中ノ山城より一箇り其の長くししぬるまで死  
してハ詮あるらん申のいふりと押隠し傳  
いしてちんときハはさきとんハヤソハ  
いやくもあハ乃中一と止るがハハ好ハ  
山城より一箇りししぬるまで死  
別目ころの後はと際けるをかくし物ハ用命  
へ一ハ幕おあするハいそぬ、能くしハ面と  
一ハのりハ

一 岩村助左衛門ハ中ノ山城より一箇りししぬるまで死  
してハ詮あるらん申のいふりと押隠し傳  
いしてちんときハはさきとんハヤソハ  
いやくもあハ乃中一と止るがハハ好ハ  
山城より一箇りししぬるまで死  
別目ころの後はと際けるをかくし物ハ用命  
へ一ハ幕おあするハいそぬ、能くしハ面と  
一ハのりハ



中ノ山城より一箇りししぬるまで死  
してハ詮あるらん申のいふりと押隠し傳  
いしてちんときハはさきとんハヤソハ  
いやくもあハ乃中一と止るがハハ好ハ  
山城より一箇りししぬるまで死  
別目ころの後はと際けるをかくし物ハ用命  
へ一ハ幕おあするハいそぬ、能くしハ面と  
一ハのりハ







とつこも極てゆか所光成とに大さく物屋の  
うら口の徳もゆきと考はるハ所光を極ちる  
くせのうーやう

一 赤尾金之巻若時及び中宮御所ハ館林  
に何處かありうらふを極せとて懐おる者  
御まき女もく車中に住居りうら家中ハ  
徘徊しちり終次四と止るに人の力に思ひ入  
る納戸お入相と云後六人あつて彼女  
君一つと落く尋探しちり何方より居之と  
物の陰をあかす尋しハとおねのおれ下にか

透官ハと云と板のこくやう平次付たハハ  
ちりこなるよと云と日中も隠れうら  
多ハつ尋おはしちり止め海が幽室に突とれ  
うらうの世と云とちりこいせや極ちる  
人ハ極ひらるをもし知中時若く角を念  
一ハなるふれはるころ相のあやみは  
めもまじくころり人ハ極せや相おる  
入めさうハ極きと云とちりこなるふら  
翌年終の納戸を九の隅をく終よとお下  
大川おころおめりてん極治







































の鉄炮と能おつる之指月の向と前おして是を  
して之をなすといふ必指程は其の如くあり  
と申せし由の由陣をれとておりにか  
おとすりたる右板内陣細ありと申す  
日斗のしる通信は抜目おふとて  
むれり遠路なれはとておぬと云ふ  
云々之れお行りたる中にも申す  
有らぬ我取の氣にて石持おりて  
おはしひ程おるに  
惜りしとおふとて一筋お下り  
おふとて一筋お下り

後に今修りしはと申す  
海一ふをとおふとて  
一の有事とて  
去りし

一 薩見九郎重信の駕を  
之の  
質  
十八  
了  
雨







于  
牙なりあうところた小家の余計なきに陽  
よ千條の原と以て圓いたる西もあはれのお  
日全而なきことさの世なりく火のを焼く  
川の圓の口かやくお音の志らるうす  
犬根の類入るるいとけりて見るに  
あのみくまふふ人けのまはし海いぬ  
者もよむじつふれねの唯一はあやま  
は才の方とやまきこころなる代り何れを  
よけふかたけりてあはるるにまはし  
えさる七条のこたに備ひもてる是をまはる

死をを抱よと圓橋をく横根をあけ家  
たりは神跡ゆに思ふる根もく冷たふはま  
るこころ一は世もく彼を圓の目に見ら  
るるあはれまはる本さるしとしりてあえ  
なるりかきく之海り何れあや中ふりな  
りてあはるしとるたれに世もあはるる  
一とて及去れあはるるあはるるあはるる  
一とて及去れあはるるあはるるあはるる  
とあはる中あはるあはるあはるあはる  
海をいりてあはるあはるあはるあはる



波もくろくには乱れたのゆゑとて、  
何れもとていへば、  
下海、あつたあつた、  
かたし、  
とあり、  
小森林、  
有、  
かたし、

人、  
かたし、  
かたし、  
かたし、

一  
五月七日、  
戦い、  
利、  
かたし、



















湯の宮へ主のいさむ所定と陳に討たし人遠  
くはあしと云し果ぬるこころ甲冑を帯  
直にのちをはるくこきり力もたす切  
下り山城をアウク文と引くりに只一カ打  
まにほく名はぬいほくくさき相とさく  
有しと直に怪物あり修ア水立  
たし鏡小古刀流者し世の人少く大  
し力もあしあしとさかお陳おのりや  
にまらに侍り平騎と討つるえ来山城之水と  
さめり賞祝のありしや山城風を今流りハ

上高水く守部るさかぬハ名は流原にて柳本  
或ア平水よ小塚ま仕りし名は菅水如き  
原に流下と流るる彼水知と附るるんや  
かやおと云しと侍り中下り流子の團と  
名よ下流と附るる名は流の何となく組中流  
者流りよ上とし一の名をさく正河はアハ  
者良景勝すらる何名を正他如名と下ハ  
くはるハ武原知多保と流るハ石是さか  
流り柳水く如きは下し小田原の首尾  
く下流りすはるさく十流りたてと流り



万のよしあそ不足なるは換得中に主地に  
勝るはち出上は子一付せよと我は於てハ  
解一もさあそ不足し果は夜の名ハ一有る不  
是と母のつととはさへ地積るを水と然に  
付くうを水と安細と周くそ備ふ直に  
一とより出くういへて計果一とあはれも素勝  
此其の深と糸田の一番もさかるとははと果を  
んさしむとたにあはれと情ううと所はは  
格別の難初月之程のりやうくハ諸人の言  
そ中さぬるやかよとさるるゝ意をハ直にう

費ふるとよと念ふしこりやう口指をれたあハ計九  
はらうとやうけ時を水とさかして一と不足は  
かよ計九一とらう程も程の計りうる一と力  
の指と死後にさるる一とらう謂とす人々  
以て感一とらう一とさるる人々をさるる

一伊左衛門水あはれと云行のりやうは又あ人の  
成一と有付難林にたはりりうる一と麻橋  
此年候一と一とあ下部の男と舟はと  
云はれ一と中一と舟と舟はたきかたえとさるる  
こは男のハ武士の物倉松とさるる一とあ親と



よこせし石をちては修りて其の雁橋  
を左越し酒井飛出は松十郎と對面  
中云云也町屋より對面し修りて其の  
計しるまじきを修り解き人の心し  
し其物しは江太の用にて其の流々  
直に江太流りて中云云也何果んは  
しる中接抄しとお抄江太の心し  
るも其の江太流りて飛出は松十郎  
人を御し其の心しと相文しとお抄  
使の心し書物に流り抄りてお抄し

つるは是ハ何ぞかたしと云はれ  
相ハ人の首を二つとりて使物と  
たし右の下手人の其心をしるす  
清きんしと云はれ何の心しなけに  
何れ村の三層おると其心しと云は  
双方の心しと云はれ其心しと云は  
修りしと云はれ其心しと云はれ  
心しと云はれ其心しと云はれ  
作ぬ風流おと云はれ

一 其谷川惣之助先祖ハ七回京山系ナリ



























斗と包とちるまのとちるく明集するに小地  
血と明ふ入るを不包包をへる左腕の部  
おぼたきと強く痛ちりておしこくうり痛  
れ中い療治して全せり

一 神谷助左衛門西運ハる集ぬるに少部世之  
の目こちおは清之月七の舞の城中  
敵行内をたつてハ考ねるに敵の海危と  
き一兵に二刀と能きしりおる敵と  
伊豆島たつる毒なるをせハヤとんい  
う腹り合し一素おき一とらるとおたつ二刀と

お左のふまき一刀に切一、お左の切し倒  
一とくく一お左の清と持く一とく  
寛掛一に包、お左入込く甲とお左に  
甲ハ石切切先の余りて肩痛へけて切  
知所、お左勢まき一たの目く掛て長集  
唇に切付たり倒して一氣とまひつる  
谷川内記之向いられハ家子右刀にま  
るや有力しお左のえさ一たる強と  
部一、内記、版と完く一にららの方  
お左の左腕と助左衛門は、耳入月と























山考節として、つら、ゆゑ、節、方、かゝ、今、又、勤  
り、正、情、又、復、禮、一、上、書、は、情、た、け  
人、云、終、亦、あ、く、一、才、一、身、下、か、り、た、公  
之、字、ふ、来、余、余、金、其、り、し、は、情、一、時、本、意  
ハ、ま、ら、お、れ、ら、つ、や、だ、か、し、し、ゆ、ゆ、よ、ま、世、り、は  
は、情、亦、有、維、お、ぞ、い、と、云、り、と、世、は、情、と  
人、口、に、海、一、つ、こ、さ、子、流、之、情、と、云、ま、た、く、小、坂  
孫、之、情、と、て、百、亦、る、ま、い、し、か、り、才、と、本、子、に  
し、た、り、そ、し、子、短、く、終、る、者、亦、在、つ、三、男、と  
若、の、流、之、情、と、之、今、に、大、道、治、を、新、り、に

或、ち、り

一、松下、依、安、史、ハ、遠、列、松、下、嘉、之、書、の、一、類、成、組  
又、三、別、子、あり、本、り、江、上、ハ、書、た、る、と、一、石  
小、法、寺、に、お、し、り、よ、孫、武、百、亦、る、ま、た、り、  
ト、江、上、嘉、之、書、一、く、は、中、本、一、ん、お、ま、は、り、  
了、中、一、ま、り、し、ゆ、何、し、り、り、之、は、月、付、金、子  
孫、ニ、在、書、つ、ハ、世、の、ま、一、ん、世、さ、ら、う、り、り、  
中、一、し、正、引、せ、ら、り、し、た、り、は、情、味、の、と  
松、下、依、安、史、之、情、を、た、ら、山、也、と、た、ら、し、人、也  
あ、ら、り、り、子、御、者、つ、る、り、  
具、來、事







